

学校運動部活動における肯定的競技引退観を促す チームの動機づけ雰囲気の特徴

中須賀 巧*
阪田 俊輔**

抄録

本研究の目的は、運動部活動が活発化する中学生、高校生、大学生の肯定的競技引退観を促す動機づけ雰囲気の特徴を解明することであった。そのため、本研究では、運動部活動における動機づけ雰囲気が競技引退に対する適応資源に影響し、その競技引退に対する適応資源が競技引退に対する態度に影響を与えるというモデルを構成した。対象は、中学生 451 名(平均年齢 13.20±0.92 歳)、高校生 125 名(平均年齢 16.38±1.05 歳)、大学生 416 名(平均年齢 19.48±1.16 歳)であった。調査内容は、運動部活動における動機づけ雰囲気測定尺度、競技引退観検査である。分析には、重回帰分析(ステップワイズ法)を用いた。本研究の結果は以下に示すとおりである。

- ① 中学校の運動部活動は承認が肯定的な競技引退観に正の影響を与えた。一方で競争は競技引退観に負の影響を与えた。
- ② 高等学校の運動部活動では、協調が肯定的な競技引退観に正の影響を与えた。一方で、コーチの能力志向は競技引退観に負の影響を与えた。
- ③ 大学の運動部活動は、承認が肯定的な競技引退観に正の影響を与えた。一方で競争やコーチの練習支援は競技引退観に負の影響を与えた。

以上のことから、肯定的な競技引退観を高めるためには、選手が主体となる承認や協調といった熟達雰囲気が重要になることが示唆された。また競争やコーチ能力志向といった成績雰囲気は肯定的な競技引退観を低下させることも示唆された。

キーワード：動機づけ雰囲気、競技引退に対する態度、競技引退に対する適応資源、運動部活動、重回帰分析

* 兵庫教育大学 〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1

** 九州大学大学院人間環境学研究院 〒816-8580 福岡県春日市春日公園 6-1

Feature of Motivational Climates Promoting Positive Views on Athletic Retirement in Athletic Club Activities

Takumi Nakasuga*

Shunsuke Sakata**

Abstract

The purpose of this study was to examine the relationship between perceived motivational climates in sport and positive views on athletic retirement in junior high school students, high school students and college students. The analysis model served as the basis of our study was as follows: the presence of “motivational climates in sport” would promote “resources to adapt for athletic retirement”, which would in turn increase “attitude toward athletic retirement”. The sample comprised 451 junior high school students (mean age=13.20±0.92 years), 125 high school students (mean age=16.38±1.05 years), and 416 college students (mean age=19.48±1.16 years). The measures used included a questionnaire regarding motivational climates in sport, a scale assessing resources to adapt for athletic retirement, and a scale assessing attitude toward athletic retirement. The validity of this model was verified using multiple regression analysis (the stepwise method). Furthermore, the results of this study indicated follow processes: ① In junior high school students, the recognition had positive influence on positive attitude toward athletic retirement and the competition had negative influence on attitude toward athletic retirement. ② In high school students, the co-operation had positive influence on positive attitude toward athletic retirement and the coacher’s promotion of performance orientation was negative influence on attitude toward athletic retirement. ③ In college students, the recognition had positive influence on positive attitude toward athletic retirement and the competition and the coacher’s promotion of task orientation had negative influence on attitude toward athletic retirement. In conclusion, in order to enhance a students’ positive attitude toward athletic retirement, it is important for students to cultivate mastery climates (the recognition and the co-operation) in athletic club activities. Moreover, performance climates made a suggestion to reduced students’ positive attitude toward athletic retirement.

Key Words : motivational climates, antecedent factors regarding athletic retirement, attitude toward athletic retirement, athletic club activities, multiple regression analysis

* Hyogo University of Teacher Education, 942-1 Shimokume, Kato-city, Hyogo 673-1494

** Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University, 6-1 Kasuga-koen, Kasuga-city, Fukuoka 816-8580

1. はじめに

競技引退は、どのようなレベルのアスリートであっても、いずれ必ず直面しなければならない発達課題であると言われている(豊田, 2011). アスリートにとって競技引退は、アスリートでなくなる大きなライフイベントとして認識され、それが引退後のスポーツとの乖離を促す深刻な心的外傷へと発展するネガティブな可能性がある。一方で、自己探求や人間的成長またはその変化を促進するポジティブな可能性も備えている。競技引退への反応をポジティブなものになるかどうかは、どのように競技から引退することができたのかという「質」に由来しており、特に競技引退に対する選手の肯定的な考え方や捉え方である肯定的競技引退観を高める必要があるとされる。特に競技からの引退を経験する運動部では、競技力の向上だけではなく、肯定的な競技引退観の形成を目指した教育的指導も求められるだろう。これまでの競技引退に関する研究は、引退後の生活に焦点が当てられた事例研究やセカンドキャリアを支援する取り組みについて議論されることが多く、競技引退前の予防的・教育的な視点から論じた知見は十分に蓄積されているとは言えない(大場・徳永, 2001). 本研究は、この肯定的競技引退観を高めるための予防的・教育的な視点などの知見の提供を目的として、チーム雰囲気づくりについて検討を進めていく。

運動部活動におけるチーム雰囲気を捉える概念の一つに動機づけ雰囲気がある。これは重要な他者(ここでは監督、コーチ、マネージャー、チームメイトなど)によってつくられる雰囲気と定義され(西田・小縣, 2008), 成績雰囲気(他者との比較を通しての達成を重視する雰囲気)と熟達雰囲気(学習や熟達のプロセスを重視する雰囲気)の2つの側面から周囲が有する目標の違いを構造的に捉えて検討することができる(Ames and Archer, 1988 ; Seifriz et al., 1992). 伊藤(2001)は、運動部活動における動機づけ雰囲気について、熟達雰囲気の側面に位置づけられる「コーチの練習支援」、「協調」、「承認」と成績雰囲気の側面に位置づけられる「コーチの能力志向」、「競争」の合計5つの下位尺度からなる調査票を作成している。また、森年・伊藤(2010)は高校生を対象に運動部活動において成績雰囲気を強く認知する選手ほどセルフ・ハンディキャッピング方略を頻繁に使用することを確認している。中須賀ほか(2016)は、サッカーやテニスなど運動部活動に所属する大学生を対象に動機づけ雰囲気、自己開示、チームへの満足感の関連について検討し、選手に熟達雰囲気を認知させるようなコーチングが自己開示を活発にし、それがチームへの満足感向上につなが

ることを示唆している。さらに、Boardley and Kavussanu (2009)は、フィールドホッケーやネットボールの選手を対象に動機づけ雰囲気と社会的行動の関連について検討し、成績雰囲気の認知が反社会的行動を促すことを報告している。このように様相の異なる動機づけ雰囲気は、その認知のされ方によって、その後の行動や感情、認知に多様な効果を呈することが予測できることから、肯定的競技引退観を育む効果的なチーム雰囲気を検討できる重要な概念になると思われる。

2. 目的

本研究の目的は、運動部活動が活発化する中学生、高校生、大学生の肯定的競技引退観を促す要因としてチーム雰囲気を指導内容や評価法から構造的に捉える動機づけ雰囲気に着目し、その特徴を解明することである。

3. 方法

1) 調査対象と調査時期

運動部に所属する中学生、高校生、大学生を対象に、平成28年5月上旬から9月上旬にかけて調査を実施し、992名(中学生451名、高校生125名、大学生416名)から欠損のない調査票を回収することができた。調査協力者への倫理的配慮として調査票の表紙に調査内容が強制的ではなく途中であっても辞退できること、中断しても不利益が被ることは一切ないこと、個人情報特定されないID番号に変換されることを記し、全ての項目への回答をもって同意所得と見なした。調査は、野球部、サッカー部、テニス部、バスケットボール部、バトントワリング部、柔道部、剣道部など様々な運動部活動で実施し、運動種目の偏りがデータに反映されないように行った。

2) 調査内容

①基本属性

性別、年齢、所属運動部について問う項目を調査票の表紙に記した。

②運動部活動における動機づけ雰囲気の測定

運動部の動機づけ雰囲気測定尺度(伊藤, 2001 ; 森年・伊藤, 2010)を用いた。この尺度は、「コーチの練習支援(4項目)」、「協調(4項目)」、「承認(4項目)」といった熟達雰囲気と「コーチの能力志向(4項目)」、「競争(4項目)」といった成績雰囲気で構成されている。回答は、「全く当てはまらない(1点)」から「とても当てはまる(6点)」の6段階で評定するよう求めた。

③肯定的競技引退観の測定

競技引退観検査(大場・徳永, 2001)を用いた。こ

の検査は、競技引退への態度を3要因から評価する競技引退に対する態度尺度31項目(「感情的態度(13項目)」、「認知的態度(9項目)」、「行動的態度(9項目)」)と競技引退に対する適応資源尺度17項目(「競技への傾倒(4項目)」、「引退への準備(2項目)」、「マイナス思考(2項目)」、「引退の誘因(2項目)」、「自信(2項目)」、「競技以外の関心(3項目)」、「競技への取り組み方(2項目)」)で構成されている。回答は、「よく当てはまる(1点)」から「全く当てはまらない(5点)」の5段階で評定するよう求めた。これらの合計得点が高いほど肯定的な競技引退観を有している。

なお、②と③の測定項目中にある逆転項目を処理したのち、すべての分析を行った。

3) 分析モデルの設定

重要な他者(コーチやチームメイト)がつくる環境の構造(雰囲気)である動機づけ雰囲気は、選手を取り巻く環境認知要因として扱われている。また、肯定的競技引退に対する適応資源は、肯定的競技引退に対する態度の先行要因として位置づけられている。この肯定的競技引退に対する適応資源は、選手に内在する個人的要因として捉えられる概念とされる。これらを踏まえ、本研究では、動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観を包括した分析モデル(図1)を設定した。このモデルにより、様相の異なるチームの雰囲気と選手の肯定的競技引退観との関係を検討することが可能になる。

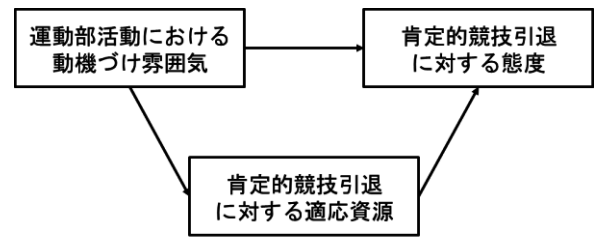


図1 分析モデル

4) 統計解析

学校間(中学校, 高等学校, 大学)における各下位尺度の得点比較には一元配置分散分析を行った。変数間の関係を検討するために、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。有意水準5%のもと、分析には統計パッケージの IBM SPSS Statistics 22.0 が使用した。

4. 結果及び考察

1) 基本統計量

分析に先立って、各下位尺度の得点を学校ごとに算出し、一元配置分散分析を行った(表1)。その結果、運動部活動における動機づけ雰囲気の「コーチの練習支援」、「協調」、「承認」、「コーチの能力支援」、肯定的競技引退に対する適応資源の「競技への傾倒」、「引退への準備」、「マイナス思考」、「競技以外の関心」、「競技への取り組み方」、肯定的競技引退に対する態度の「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」の各下位尺度の得点に有意な差が認められた。多重比較の結果は表1に示すとおりである。

表1 各尺度の基本統計量

| 各尺度名 | 得点範囲 | 中学生(n=451) | 高校生(n=125) | 大学生(n=416) | F値 | 多重比較 |
|------------------------|---------|--------------|--------------|--------------|----------|--------|
| | | 平均値 (SD) | 平均値 (SD) | 平均値 (SD) | | |
| 運動部活動の動機づけ雰囲気 | | | | | | |
| コーチの練習支援 | (4-24) | 17.13 (4.27) | 18.00 (4.51) | 16.17 (4.52) | 10.14 * | 中, 高>大 |
| 協調 | (4-24) | 16.70 (4.25) | 17.87 (4.64) | 17.05 (4.01) | 3.86 * | 中>高 |
| 承認 | (4-24) | 17.78 (4.00) | 18.89 (4.27) | 17.64 (3.84) | 4.89 * | 高>中, 大 |
| コーチの能力志向 | (4-24) | 12.33 (4.91) | 11.68 (4.92) | 13.38 (4.05) | 9.18 * | 大>中, 高 |
| 競争 | (4-24) | 16.27 (4.05) | 16.24 (4.12) | 16.56 (3.93) | 0.66 | |
| 肯定的競技引退に対する適応資源 | | | | | | |
| 競技への傾倒 | (4-20) | 12.98 (3.20) | 11.23 (3.36) | 9.81 (2.95) | 112.90 * | 中>高>大 |
| 引退への準備 | (2-10) | 5.32 (1.99) | 5.89 (2.15) | 6.25 (2.11) | 21.89 * | 大, 高>中 |
| マイナス思考 | (2-10) | 5.76 (1.87) | 5.14 (1.87) | 5.20 (1.96) | 11.29 * | 中>高, 大 |
| 引退の誘因 | (2-10) | 6.36 (1.21) | 6.38 (1.22) | 6.45 (1.09) | 0.61 | |
| 自信 | (2-10) | 6.56 (1.74) | 6.65 (1.81) | 6.62 (1.86) | 0.19 | |
| 競技以外の関心 | (3-15) | 11.58 (2.15) | 12.04 (1.99) | 11.49 (2.22) | 3.18 * | 高>大 |
| 競技への取り組み方 | (2-10) | 7.37 (1.56) | 6.94 (1.79) | 6.33 (1.60) | 45.60 * | 中>高>大 |
| 肯定的競技引退に対する態度 | | | | | | |
| 感情的態度 | (9-45) | 25.79 (5.82) | 29.90 (4.98) | 30.50 (5.58) | 81.96 * | 大, 高>中 |
| 認知的態度 | (13-65) | 40.96 (7.02) | 45.91 (6.09) | 45.22 (7.14) | 50.00 * | 大, 高>中 |
| 行動的態度 | (9-45) | 29.36 (3.41) | 30.79 (3.30) | 31.35 (4.43) | 29.58 * | 大, 高>中 |

* $p < .05$

2) 中学校の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

中学校における重回帰分析の結果を図2に示す。まず、運動部活動における動機づけ雰囲気から競技引退に対する態度への直接効果について述べると、「競争」は「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」に負の影響(順に $\beta=-.22$, $\beta=-.16$, $\beta=-.13$)を示した。また「承認」は「行動的態度」に正の影響($\beta=.19$)を示した。

次に、動機づけ雰囲気と態度の関係に競技引退に対する個人要因を媒介する間接効果が認められた部分について述べる。「コーチの練習支援」、「コーチの能力志向」、「競争」は「競技への傾倒」にそれぞれ負の影響(順に $\beta=-.17$, $\beta=-.10$, $\beta=-.20$)を示し、その「競技への傾倒」は「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」に正の影響(順に $\beta=.33$, $\beta=.31$, $\beta=.14$)を示した。「協調」と「承認」は「引退への準備」に負の影響(順に $\beta=-.12$, $\beta=-.13$)を示し、「引退への準備」は「認知的態度」と「行動的態度」に正の影響(順に $\beta=.17$, $\beta=.14$)を示した。「コーチの能力志向」は「マイナス思考」に負の影響($\beta=-.14$)を示し、「マイナス思考」は「認知的態度」に正の影響($\beta=.12$)を示した。「協調」は「引退の誘因」に負の影響($\beta=-.14$)を示し、「引退の誘因」は「感情的態度」に正の影響($\beta=.19$)を示した。「承認」と「競争」は「自信」に正の影響(順に $\beta=.13$, $\beta=.14$)を示し、「自信」は「行動的態度」に正の影響($\beta=.19$)を示した。また、前述

の「承認」は「競技以外の関心」にも正の影響($\beta=.21$)を示しており、その「競技以外の関心」は「認知的態度」と「行動的態度」に正の影響(順に $\beta=.11$, $\beta=.19$)を示した。

最後に「競技への取り組み方」には「承認」が正の影響($\beta=.24$)を、「コーチの能力志向」が負の影響($\beta=-.11$)を示したが、そこから競技引退に対する態度への有意なパスは確認されなかった。

なお、説明力を示す決定係数(以下「 R^2 」とする)の値は、競技引退に対する態度では $R^2=.14$ から $R^2=.28$ 、競技引退に対する個人要因では $R^2=.02$ から $R^2=.11$ を示した。

以上の結果から、中学校の運動部活動では部員間で起こる競争は競技引退に対する態度がネガティブになることが示唆される。一方で部員同士の心身の支えや互いを認め合える部の雰囲気が高めることが重要になることが示された。

3) 高等学校の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

高等学校における重回帰分析の結果を図3に示す。まず、運動部活動における動機づけ雰囲気から競技引退に対する態度への直接効果について述べると、「協調」は「行動的態度」に正の影響($\beta=.39$)を示した。

次に、動機づけ雰囲気と態度の関係に競技引退に対する個人要因を媒介する間接効果が認められた

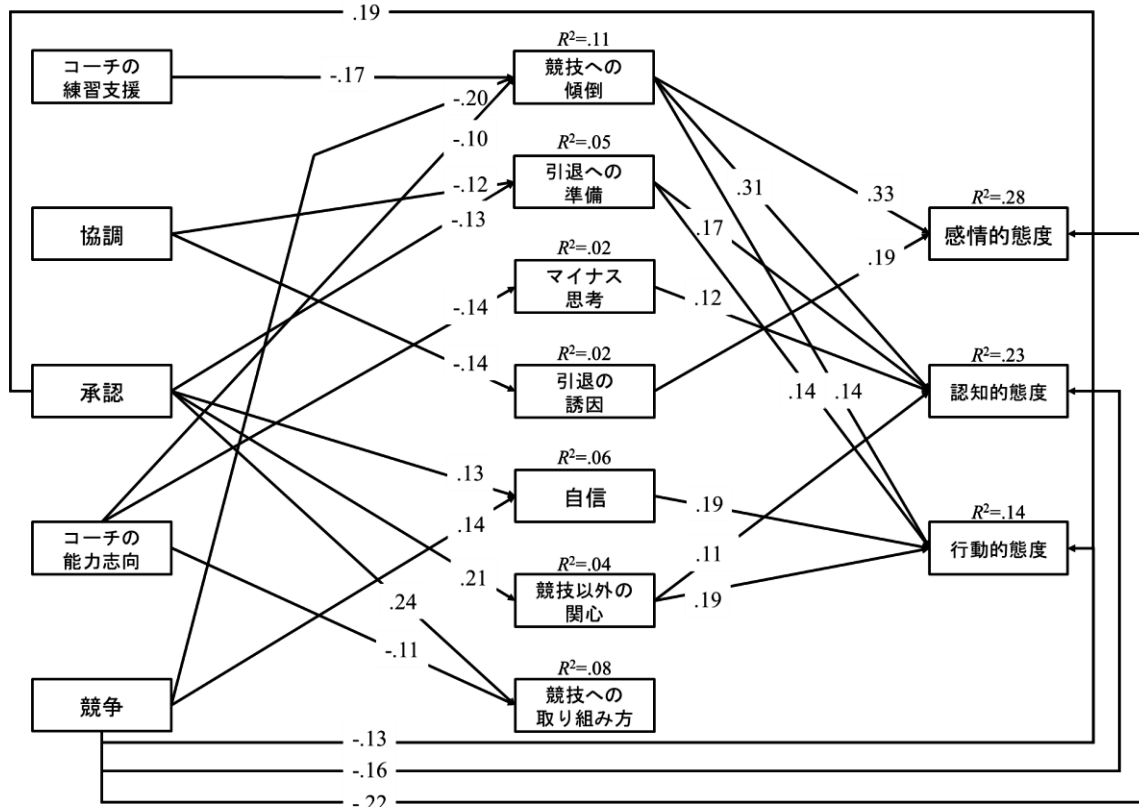


図2 中学校の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

部分について述べる。「協調」は「引退への誘因」に負の影響($\beta=-.39$)を、「競技への取り組み方」に正の影響($\beta=.34$)を示し、そして「引退への誘因」は「感情的態度」に正の影響($\beta=.17$)を示し、「競技への取り組み方」は「認知的態度」に正の影響($\beta=.18$)を示した。続いて「競争」は「競技への傾倒」に負の影響($\beta=-.38$)を、「引退への準備」に正の影響($\beta=.21$)を示し、さらに「競技への傾倒」は「感情的態度」に、「引退への準備」は「認知的態度」にそれぞれ正の影響(順に $\beta=.55, \beta=.21$)を示した。

最後に「コーチの能力志向」は「マイナス思考」に正の影響($\beta=.22$)を、「自信」に負の影響($\beta=-.29$)を、「競争」は「自信」に正の影響($\beta=.28$)を示したが、そこから競技引退に対する態度への有意なパスは確認されなかった。また「コーチの練習支援」からの有意なパスは認められなかった。

なお、説明力を示す R^2 の値は、競技引退に対する態度では $R^2=.07$ から $R^2=.32$ 、競技引退に対する個人要因では $R^2=.05$ から $R^2=.17$ を示した。

以上の結果から、高等学校の運動部活動では、部内の規律を守ることや凝集性を大切にす雰囲気作りが肯定的な競技引退観を高めることが示唆された。一方で練習中のコーチの関り方として選手同士を比較することや特定の選手にのみ注目するような雰囲気は部への嫌悪感を引退理由にさせてしまう可能性も十分に考えられるだろう。

4) 大学の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

大学における重回帰分析の結果を図4に示す。まず、運動部活動における動機づけ雰囲気から競技引退に対する態度への直接効果について述べると、「承認」は「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」にそれぞれ正の影響(順に $\beta=.19, \beta=.21, \beta=.21$)を示した。「コーチの練習支援」は「感情的態度」に負の影響($\beta=-.15$)を示した。「競争」は「認知的態度」と「行動的態度」にそれぞれ負の影響(順に $\beta=-.15, \beta=-.17$)を示した。

次に、動機づけ雰囲気と態度の関係に競技引退に対する個人要因を媒介する間接効果が認められた部分について述べる。まず「コーチの練習支援」と「承認」は「競技以外の関心」に正の影響(順に $\beta=.12, \beta=.19$)を示し、そして「競技以外の関心」は「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」にそれぞれ正の影響(順に $\beta=.17, \beta=.28, \beta=.36$)を示した。続いて「競技への取り組み方」に対して「承認」は正の影響($\beta=.23$)を、「競争」は負の影響($\beta=-.12$)を示し、その「競技への取り組み方」は「行動的態度」に正の影響($\beta=.10$)を示した。また「自信」には「コーチの能力志向」は負の影響($\beta=-.20$)を、「競争」は正の影響($\beta=.26$)を示し、そして「自信」は「感情的態度」、「認知的態度」、「行動的態度」にそれぞれ正の影響(順に $\beta=.11, \beta=.29, \beta=.15$)を示した。さらに「コーチの能力志向」は「引退への準備」に正の影響($\beta=.15$)

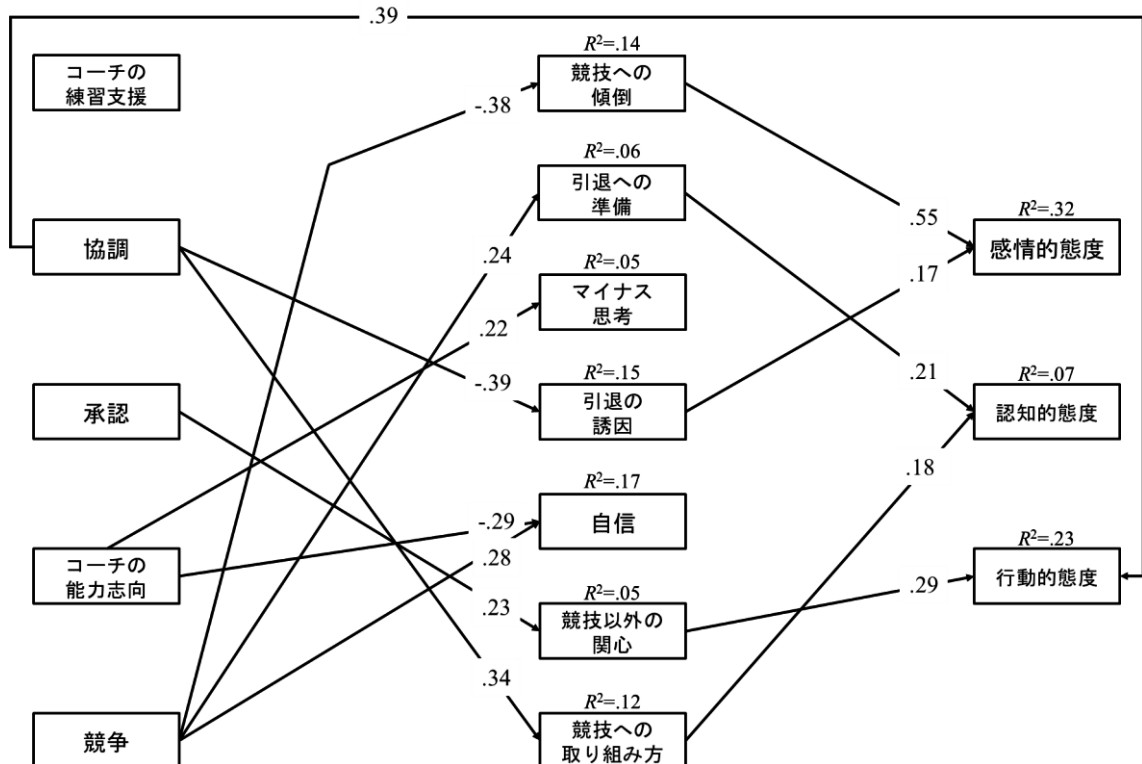


図3 高等学校の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

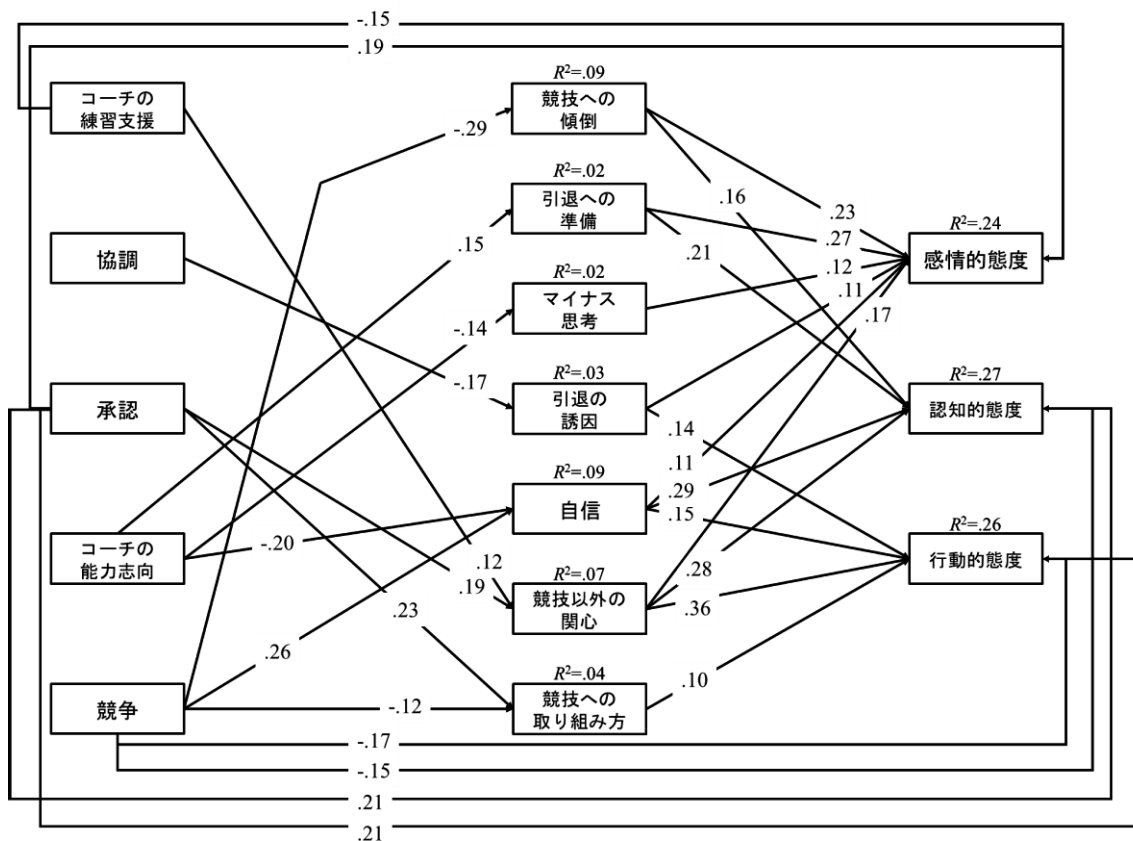


図4 大学の運動部活動における動機づけ雰囲気と肯定的競技引退観の関係

を、「マイナス思考」に負の影響($\beta=-.14$)を示し、それら「引退への準備」は「感情的態度」と「認知的態度」に正の影響(順に $\beta=.27$, $\beta=.21$)を、「マイナス思考」は「感情的態度」に正の影響($\beta=.12$)を示した。

「協調」は「引退への誘因」に負の影響($\beta=-.17$)を示し、そして「引退の誘因」は「感情的態度」、「行動的態度」に正の影響(順に $\beta=.11$, $\beta=.14$)を示した。「競争」は「競技への傾倒」に負の影響($\beta=-.29$)を示し、「競技への傾倒」は「感情的態度」と「認知的態度」に正の影響(順に $\beta=.23$, $\beta=.16$)を示した。

なお、説明力を示す R^2 の値は、競技引退に対する態度では $R^2=.24$ から $R^2=.26$ 、競技引退に対する個人要因では $R^2=.02$ から $R^2=.09$ を示した。

以上の結果から、大学における運動部活動では、中学校と同様に部員同士が承認しあえるような雰囲気を強調することが肯定的な競技引退観を高めるのではないかと考えられる。その一方で、コーチが練習中に技能指導を過度に行うことは引退観を高めることにはつながらない可能性がある。また部員同士の優劣を競争で決定するような部の雰囲気づくりもネガティブな引退観を喚起させる可能性があると言えるだろう。

5. まとめ

本研究の目的は、運動部活動が活発化する中学、高校、大学生の肯定的競技引退観を促す動機づけ雰囲気の特徴を解明することであった。本研究で得られた成果は以下に示すとおりである。

- ① 中学校の運動部活動は選手同士が承認しあうことができるような雰囲気づくりが必要である。一方で選手同士が競い合うような競争を重視するような雰囲気づくりは選手の引退観にネガティブな影響を与える。
- ② 高等学校の運動部活動では、自分たちで決めた部のルールを厳守していくことができるような雰囲気づくりが必要である。一方で、コーチが選手の能力に注目し、評価するような雰囲気は部への嫌悪感を引退理由にさせる可能性がある。
- ③ 大学の運動部活動には、中学校と類似した傾向があり、特に承認を強調させる雰囲気づくりが重要になることが確認された。一方で、コーチが過度に練習指導することや選手同士の競争は抑制する必要があるだろう。

参考文献

- Ames, C. and Archer, J. (1988) Achievement goals in the classroom: Students' learning strategies and motivation processes. *Journal of Educational Psychology*, 80, 260-267.
- Boardley, I.D and Kavussanu M. (2009) The influence of social variables and moral disengagement on Prosocial and antisocial behaviours in field hockey and netball. *Journal of Sports Sciences*, 27, 843-854.
- 伊藤豊彦 (2001) 高校生における運動部の動機づけ構造の認知に関する研究. *運動心理学の展開*. 遊戯社, pp. 148-162.
- 森年雅子・伊藤豊彦 (2010) スポーツにおける目標志向性とチームの動機づけ構造がセルフ・ハンディキャッピングに及ぼす影響. *島根大学教育学部紀要 (教育科学)*, 44, 49-57.
- 中須賀巧・阪田俊輔・杉山佳生 (2016) 運動継続のための大学運動部活動における動機づけ雰囲気, 自己開示, 満足感の関係. *スポーツパフォーマンス研究*, 8, 1-13.
- 西田保・小縣真二 (2008) スポーツにおける達成目標理論の展望. *総合保健体育科学*, 31, 5-12.
- 大場ゆかり・徳永幹雄 (2001) スポーツ選手の競技引退観検査の作成. *スポーツ心理学研究*, 28, 39-52.
- Seifriz, J. J., Duda, J. L., and Chi, L. (1992) The relationship of perceived motivational climate to intrinsic motivation and beliefs about success in basketball. *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 14, 375-391.
- 豊田則茂 (2011) アスリートのアイデンティティ形成とキャリア移行. *生涯スポーツ心理学-生涯発達の視点からみたスポーツの世界-*. 福村出版, pp. 163-173.

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。

